

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成 26 年度）

1. 機関番号 

3	2	6	0	4
---	---	---	---	---

      2. 研究機関名 大妻女子大学

3. 研究種目名 基盤研究(C)      4. 補助事業期間 平成 26 年度～平成 28 年度

5. 課題番号 

2	6	3	8	0	8	5	2
---	---	---	---	---	---	---	---

6. 研究課題名 集团的尊敬による集団間紛争解決過程の解明

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
2 0 4 0 0 2 0 2	クマガイ トモヒロ 熊谷 智博	文学部	准教授

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

9. 研究実績の概要

集団間紛争解決に対する集团的尊敬の効果を検証するため、本年度は日本人のメタ・ステレオタイプ、特に有能さ、温かさ、尊敬のメタ・ステレオタイプが中国との和解的態度に与える影響を質問紙調査で検討した。具体的には128名の大学生を対象に、「中国人は日本人をどのように考えているか」についての推測であるメタ・ステレオタイプについて、有能さ6項目、温かさ5項目、尊敬2項目、更に中国との紛争解決に対する建設的態度として、政府による謝罪と補償を支持する程度、中国の態度の不正さに関する項目を用いた。回帰分析の結果は尊敬に関するメタ・ステレオタイプを強く認知している人ほど、中国との紛争解決に対してより建設的な態度を強めていた。またその尊敬の感覚は有能さのメタ・ステレオタイプによっては影響されなかったが、温かさのメタ・ステレオタイプによって強められていた。従って集団間紛争解決を促進する要因として「日本人は尊敬されている」という自集団に対するポジティブな認知が有効であることが示された。これは従来の集団間接触などを通じて外集団に対するネガティブなイメージをいかに払拭するかというアプローチとは異なり、自集団のイメージを変えることが集団間紛争解決に有効であるという本研究課題の予測を支持するものである。更に有能さのメタ・ステレオタイプが効果を持たなかったことは、有能さが主に集団内尊敬に影響し、集団間では温かさの効果がより重要であることを示している。

本年度はより一般的なデータを収集すべく調査会社に依頼して、大学生以外の一般の人々を対象とした調査を予定していたが、質問項目の修正作業を年度内に終わらせることが出来ず、調査実施は次年度に繰り越すことになった。ただし、平行して国際比較の為の協力者を募り、アメリカでの調査実施の計画を進めることが出来たので、次年度の予定はその分早まった。